

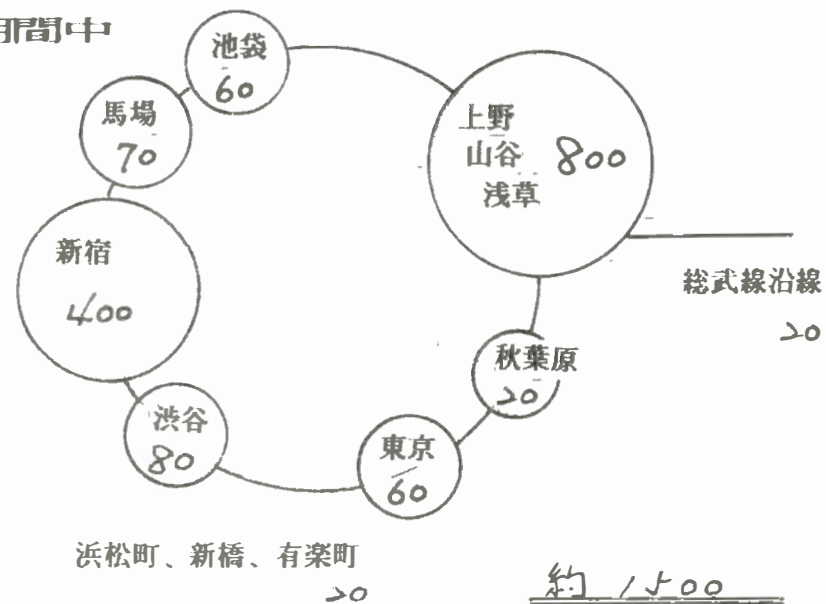
東京都・区福祉事務所による2.17新宿アオカン  
(野宿)労働者叩き出しに抗議する  
私達のたたかひの報告

- 94年 2月17日 東京都、新宿区、新宿警察が一体となった「撤去、追い出し、フェンス  
はり工事、街頭相談」に対する監視活動
- 18日 23区福祉事務所に対する電話アンケート
- 19日 緊急新宿パトロール(出会った仲間約150人)
- 21日 日雇全協・山谷争議団とともに東京都、企画審議室、福祉局、建設局、  
新宿区福祉事務所に対し、抗議文を叩き付ける。及び、新宿駅西口通路  
にて情宣活動  
同日、記者会見にて「声明」を発表
- 22日 緊急渋谷パトロール
- 23日 大田寮に収容されている仲間に対するビラ入れ行動  
同日緊急高田馬場、池袋パトロール
- 24日 新宿パトロール(出会った仲間約320人)
- 25日 新宿駅西口通路で情宣活動  
「撤去作業」に対する抗議行動  
日雇全協・山谷争議団とともに建設局に対する「奪った荷物を返せ！」  
行動、福祉局弾劾行動  
同日夜 渋谷・原宿生命と権利をかちとる会『「追い出し」と闘う合同  
会議』に合流  
同日夜 緊急東京、銀座パトロール
- 27日 山谷、上野パトロール、ビラ入れ行動
- 3月 1日 大田寮に収容されている仲間に対するビラ入れ行動
- 3日 新宿パトロール(出会った仲間約420人)
- 4日 新宿駅西口通路で情宣活動  
日雇全協・山谷争議団とともに新宿区福祉事務所に対する「一時しのぎ  
の収容をするな!きちんとした生活保護をよこせ」行動、福祉事務所に  
対する要求書を提出。および、東京都建設局と、東京都知事鈴木に対す  
る「奪った荷物を返せ！」行動  
同日夜 渋谷・原宿生命と権利をかちとる会『「追い出し」と闘う合同  
会議』に合流
- 5日 山谷、上野パトロール、ビラ入れ行動
- 7日 大田寮に収容されている仲間に対するビラ入れ行動

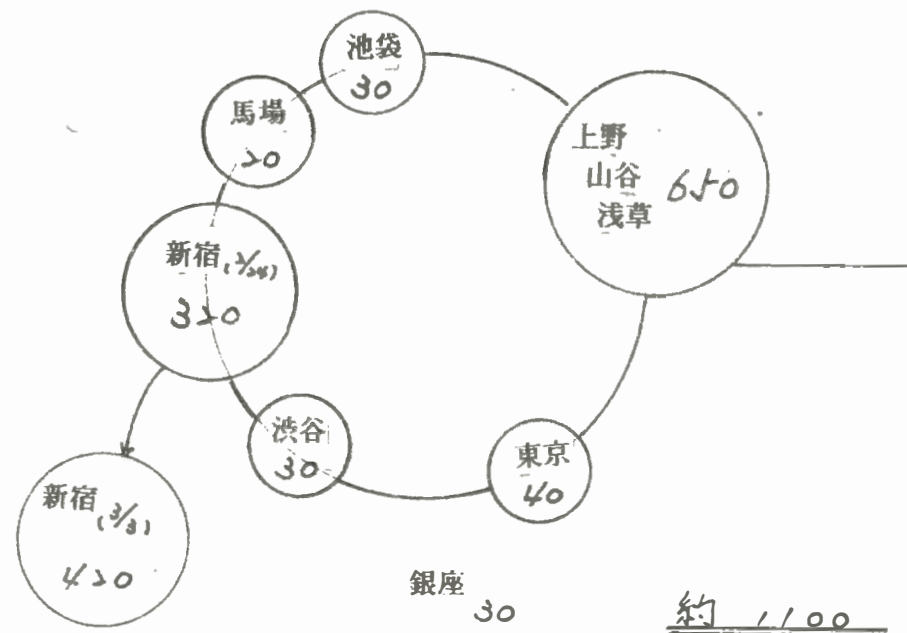
パトロールで出会った野宿労働者の数

93-94 越年期間中

12.28 ~ 1.4



2/19 ~ 2/25



1994.3.7

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班  
東京都台東区日本堤1-25-11  
03(3872)7109

東京都・新宿区福祉事務所による2・17  
新宿アオカン（野宿）労働者叩き出し  
に反対する「声明」

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

マスコミの報道で明らかなように、去る、2月17日、東京都・企画審議室、福祉局、建設局と新宿区福祉事務所、新宿警察合同による、新宿西口地下通路で生活するアオカン（野宿）労働者に対する追い出し、荷物の撤去、それと同時に地下通路全域に及ぶ「環境整備工事」の着手、及び、「街頭相談」実施による大田寮への大量収容が行われました。

新宿駅からのアオカン（野宿）労働者の一掃を狙ったこの計画的組織的「叩き出し作戦」は、アオカン（野宿）労働者の人権を無視したまったく一方的なものであり、追い出し、寝床を奪い、一時的に施設に収容すれば事足りんとする、行政責任（保護責任）を放棄した、弥縫策でしかないものです。すでに、福祉事務所の現場では「これじゃ、追い出しといわれてもしょうがない」「新宿のやりかたはひどい」という声が多数上がっており、その当事者さえ、正当性を主張できない代物でしかないのです。マスコミ報道によれば、「人命保護と環境美化の措置」であると都の職員は語っているようですが、突然、警察を先頭に大学して押し掛け「ここからどけ！荷物をどかせ！」と頭ごなしにどなりつけ、ダンボールや荷物を強制的に撤去する、このどこが、人命保護なのでしょうか。一週間だけ施設に放りこみあとは勝手にどっかへ行けとする収容策のどこが人命保護なのでしょうか。このように「弱者」を踏み付けにしたあとに作る花壇なるもののどこが、環境美化なのでしょうか。それは、行政の汚さを隠蔽する花でしかありません。

新宿のアオカン（野宿）労働者は、建設産業のみならず、他産業から様々な理由で、アオカン（野宿）へと追い込まれた種々な層で構成され、それでも、かなりの横のつながりをもって、苦しいながらも、力強く生活していました。この共同性を一方的に奪い、一人一人孤立させ、結局は野たれ死にへと追い込もうとする、この新宿のやり方には、一かけらの正当性もありません。

私達は強く今回の当該官庁による諸「事業」に抗議します。また、この事態が全都的に広がることを強く憂慮します。

私達、山谷労働者福祉会館・人民パトロール班は、山谷地域を軸に、都下全域に広がっているアオカン（野宿）労働者に対するパトロール活動、炊き出し、対福祉事務所行動などを山谷労働者と共にたたかってきました。私達の調査では、現在、山谷、浅草、上野など山谷地域で約800名、新宿、渋谷などその他の地域で約700名、合せて都内だけで1500名以上の労働者がアオカン（野宿）を強いられています。これは去年の比では1.5倍、一昨年比では3倍の数です。不況の深刻化の中、都内各地の寄せ場から仕事が減り、駅手配（闇手配）での仕事を求めて都内各地を転々と、アオカン（野宿）をしながら移動している日雇層労働者がいかに多いかが、この数字から明らかだろろうと思います。この多くの労働者の大半は好き好んでアオカンしている訳ではありません。重層的労務下請構造の末端に位置し、低賃金、強労働のなかこき使われながら、仕事がなくなると真先に首を切られるその構造の中、資本に使い捨てられた結果として、彼等はアオカン（野宿）へと追い込まれているのです。しかも、行政は失業対策、仕事の保障も行わず、また、正当な権利としてある生活保護法の適用すら積極的に行わず、放置してきた結果として、現在の状態があるのです。

このことを全く認識もせず、ただ、力まかせに、追い散らせ、分散させ、孤立させ、野たれ死なせていく行政の動きが、排外的な社会風潮を形成させていくことは明らかです。すでに隅田公園や浅草では、中、高校生によるアオカン（野宿）労働者の襲撃が後を断たずに起こっています。このような社会風潮に対しても我々は警告を発していきます。新宿の例が、全都的に行われ、それを市民が、無批判に受け止めたらどうなるのか？想像するだけでも背筋が寒くなります。

東京都・新宿区は今回の「叩き出し」の責任を取れ！

二度とこのような「叩き出し」を行うな！

東京都はアオカン（野宿）労働者の当然の権利を認めろ！

1994年 2月20日

（文責 笠井 和明）



## 抗議文

二・一七新宿西口諸「事業」に係わった関係官庁責任者殿

わたしたち山谷労働者福祉会館・人民パトロール班と、日雇全協山谷争議団は、さる二月十七日、新宿西口地下通路にて行なわれたアオカン（野宿）労働者への強権的な追い出しと荷物の撤去、「西口環境整備工事」なる居住地へのフェンス張り工事、及び、街頭相談における大田寮への一時しのぎの収容、これら一連の諸「事業」に係わった関係官庁に対し、強く抗議するものである。

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班は、建設、土木業に従事する日雇労働者の街・山谷を拠点に、都下全域のアオカン（野宿）労働者に対するパトロール活動、炊き出し活動、対福祉行動を山谷の労働者とともにたたかってきた団体である。また、日雇全協・山谷争議団は全国日雇労働組合協議会に所属する、山谷の地における日雇労働者の組合として、種々の労働争議や、労務供給体制に巣くう手配師、ヤクザとのたたかいを推進してきた団体である。両団体は、山谷労働者福祉会館に集う諸団体と共に、日雇労働者の「運命」ともいべき「アブレ（失業）―アオカン（野宿）―野たれ死」に対決する取り組みを担っている。

これまでの活動の中で、わたしたちは、一昨年から約三倍、昨年から一・五倍にも急増した千五百名ものアオカン（野宿）労働者と出会ってきた。実際にアオカン（野宿）せざるを得なくなった労働者の現実と向きあいながら、生きるための方策を共に考え、「解決」していくたたくいに着手している。この活動の中で、劣悪な環境の中、低賃金、強労働でこきゆかい必要がなくなったら賃金も払わず放り出す、駅、公園の闇手配飯場の存在、そして、福祉事務所にかけこんでも、「住所がない」「まだ働ける」と人の話も聞かずに放り出す行政の存在に多々直面している。不況の中、山谷など寄せ場に仕事なくなり、駅の闇手配を求めて、転々としながら、行政にも見はなされ路上で、病院で「野たれ死」の運命をむかえる労働者の姿を目の前にする時、アオカン（野宿）という苛酷な生活様式をとらざるを得ないその原因は、重層的労務下請構造の中での労働者の使い捨て、労働行政の無策、福祉行政の保護責任の放棄、によるものであるとわたしたちは確信している。

何故労働者がアオカンせざるを得ないのか。この本質を見ようとせず、行政の責任を隠蔽し、新宿西口地下通路のアオカン（野宿）労働者一掃の目的のみのため行われた、二・一七の諸「事業」は、アオカン（野宿）労働者の人権を無視した、まったくの暴挙であると言わざるを得ない。

新宿警察を先頭にした、都、建設局による有無をいわせぬ一方的な追い出しと、荷物の強奪。今まで数年にわたり「占拠」を放置してきたにもかかわらず、突然管理権を盾にし、既得権までも剥奪する権利がどこにあるのか。「占有者」に何の説明もせず、警察権力を引きつけて威圧的に生活の場から引き剥がす行為のどこに「人命尊重」の精神があるのか。アオカン（野宿）

せざるを得ない労働者に対する「おもいやり」のかけらもない。東京都の人権感覚を疑わざるを得ない行為である。

しかも、この追い出し行為をした直後に、「新宿西口環境整備工事」なるフェンス張り、植木の設置工事を東京都第三建設事務所に行なわせた。目的は明々白々である。二度とその場にアオカン（野宿）させまいとする実には陰湿な行為であり、管理権を逸脱した越権行為である。何故、正直に「路上生活者追い出し工事」と、工事の性格を公表できないのか。

更に、追い出し、身ぐるみはがされた労働者を、区・福祉事務所がこれらの動きと連携しながら、街頭相談をし、大田素へ百十八名もの労働者を収容した。これは、あからさまな暴力的な叩き出しをする一方で、「保護」しますという対外的なアリバイを作ったにすぎない。実態は、九十一名はたったの一週間、残り二十七名は一か月たらずの収容で、あとは、「勝手にどこかへ行ってくれ、勝手に野たれ死んでくれ」と言ってるのと同じである。しかも、九十一名は生活保護法外の措置でしかなく、正式な保護すらしない、まったくの場かぎり、一時しのぎでしかない「保護」である。これで一体何が解決するのか？解決しようとする意思すらあるとはとうてい思えない。保護責任すらまともに行なわず、都の叩き出し作戦のお先棒を担いだのが、今回の福祉の行為であり、もはや、「福祉」とは似て非なるものである。

総じて、これらの諸「事業」は新宿西口で生活しているアオカン（野宿）労働者を排除し、労働者同士のつながりを分断し、野たれ死にを強制する、この目的のためにのみ、計画的組織的に行なわれた行政の犯罪である。

わたしたちは、この犯罪に手を貸した関係官庁が、自らの非を認め、新宿西口地下でアオカン（野宿）する労働者に謝罪し、奪った荷物、ダンボールをすぐさま返却し、地下通路を現状復帰し、一時しのぎの収容政策を取りやめ、正当な生活保護法に則った保護を今後行なうよう強く申し入れる。

一九九四年二月二十一日

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

台東区日本堤一―二五―十一

〇三―三八七二―七一〇九

日雇全協・山谷争議団

東京都荒川郵便局止め